

中央地区 まちづくり計画書



活動テーマ「^{えん}縁」

令和8年3月
中央地区自治振興会

目 次

1. はじめに	P2
2. 現状	P3
● 自然	
● 祭	
● 施設	
● 中央地区(旧成松町)の成り立ち	
● 神社・仏閣	
● 人口の推移・推計	
3. 成果と課題	P7
● 成果	
● 課題	
4. 基本方針	P8
● 活動テーマとキャッチフレーズ	
● 基本方針	
● 関連図	
5. 事業計画	P10
● 基本方針に基づく事業の考え方	
● 事業のアイデア	
6. 運営体制	P14
● 計画を推進する運営体制	
7. 計画策定の経過	P15
● 委員会等の開催記録	
● 代表的な取り組み	

1. はじめに

中央地区は近年の時代の流れとともに、人口減少や高齢化の進行により、地域活動の担い手不足が深刻化しており、地域の活動にも影響が出てきております。

地域の状況が変わっていく中で、今こそ子どもや若い世代、高齢者等同じ地域に住むすべての人が、共に住みやすい地域を作っていくためには、「今何ができるのか」を考え、その課題を共有し、解決に向けての連携が必要であります。

中央地区での「地域づくり事業計画」は平成19年度から始まり、改定を加えながら平成29年度からは活動テーマを「和（わ）」として、人の和、和（なご）みの思いを入れた計画書を策定し、課題解決を図りながら今日まで事業を進めてきました。

この「地域づくり計画書」も改定時期を迎え、今後10年を見据えた新しい計画書策定に、中央地区内の団体、組織からなる地域づくり計画拡大検討委員会を立ち上げ、名称も「こうが山ふるさと未来委員会」とし、2年の歳月をかけて取り組んできました。

「すべての人が関わり共に歩み進んでいける地域とは」を問うため、全住民アンケート、小学生（4～6年生）アンケート、また事業者、学校の先生、大学生へのヒアリング、「中央まちびらき会議」の開催で得た貴重なデータや生の声をできるだけ可視化していきました。

また、その中で新たな活動テーマを「縁」とし、10年先を見据えた「中央地区地域づくり計画書」“みんなが集い 心を紡ぎ 縁を育てるまち 中央”を策定しました。

皆様には、本計画の趣旨、事業内容をご理解いただき、次代を担う子ども達の未来のために、今を生きる私たち住民が一丸となって課題解決に向かった「縁」を紡いでいきましょう。



2. 現状

将来、中央地区がどのようにすすんで行けばよいかを考えるための基盤として、中央地区の現状についてまとめました。

● 自然

中央地区には甲賀山や明治山といった山々、加古川や葛野川といった河川、そして歴史的な町並みと豊かな自然があり、これらの資源を将来に向けて地域の魅力として活かしていく視点を大切にしていきます。



● 祭

300年以上の伝統をもつ愛宕祭は、江戸時代中期に五穀豊穡と鎮火を願い京都の愛宕神社から分霊を勧請したことに始まるとされています。コロナ禍で3年間休止していましたが令和5年からは規模を縮小して開催し、市の指定文化財である「造り物」や打ち上げ花火の奉納といった伝統は受け継がれており、こうした歴史的行事を将来に向けて守り、活かしていきます。



● 施設

丹波市氷上町中央地区には、行政施設や生活関連施設、教育文化施設など、さまざまな公共施設が集積しており、これらを地域全体で有効に活用していきます。



中央図書館



氷上文化センター



植野記念美術館

● 中央地区（旧成松町）の成り立ち

葛野川、犬岡小橋のあたりに、弥生時代の住居跡・画場等が見つかっており、その頃には人々が住んでいたと思われます。その後、黒田・上成松・常楽の山裾に古墳が築かれ更に多くの人々が暮らしていた事でしょう。

成松という地名が最初に現れるのは、成松町誌によると鎌倉の円覚寺文書で、「徳治元年（1306）丹州成松保正統院領……」とあります。

天正年間（1573～）、勝田勘人郎により成松城〔屋形城〕が上成松（上ゲは城の入り口）に築かれました。その後、天正7年（1579）明智光秀の丹波攻めにより勘八郎は討ち死にし、城は焼失したと伝わっています。

江戸時代になると、播磨～但馬への街道沿いに、上成松東部と柿芝町（下町・中町・上町等）を合わせた地が町場化し商人中心の成松の町並みが形成されました。

更に葛野庄への入り口、三原の黒見鉾山の開発等により、北町、新田が市街化し、元禄期には成松三人市が開かれ、春の雛市、盆の市、暮れの大市と商業の色彩を色濃くし、今の成松の町並みが形成され発展します。

今も大きな妻入商家が残りますが、車社会の到来により、郊外型のショッピングセンターへの出店、厳しい経済状況、商店主の高齢化による後継者難等により、閉店や住宅への建て替え、空き地化し、街並みが変わりつつあります。

文責 丹波市文化財保護審議会 委員 篠崎 昌裕（成松）



● 神社・仏閣

中央地区には、多くの神社や寺が地域の人々によって丁寧に祀られています。

高山寺、大崎神社、極楽寺、大護神社、愛宕神社、蛭子神社、稲荷神社、八幡神社、不動尊、行雲寺、宗蓮寺、西念寺、妙寿寺、一ノ宮神社、正福寺、箱森神社、他

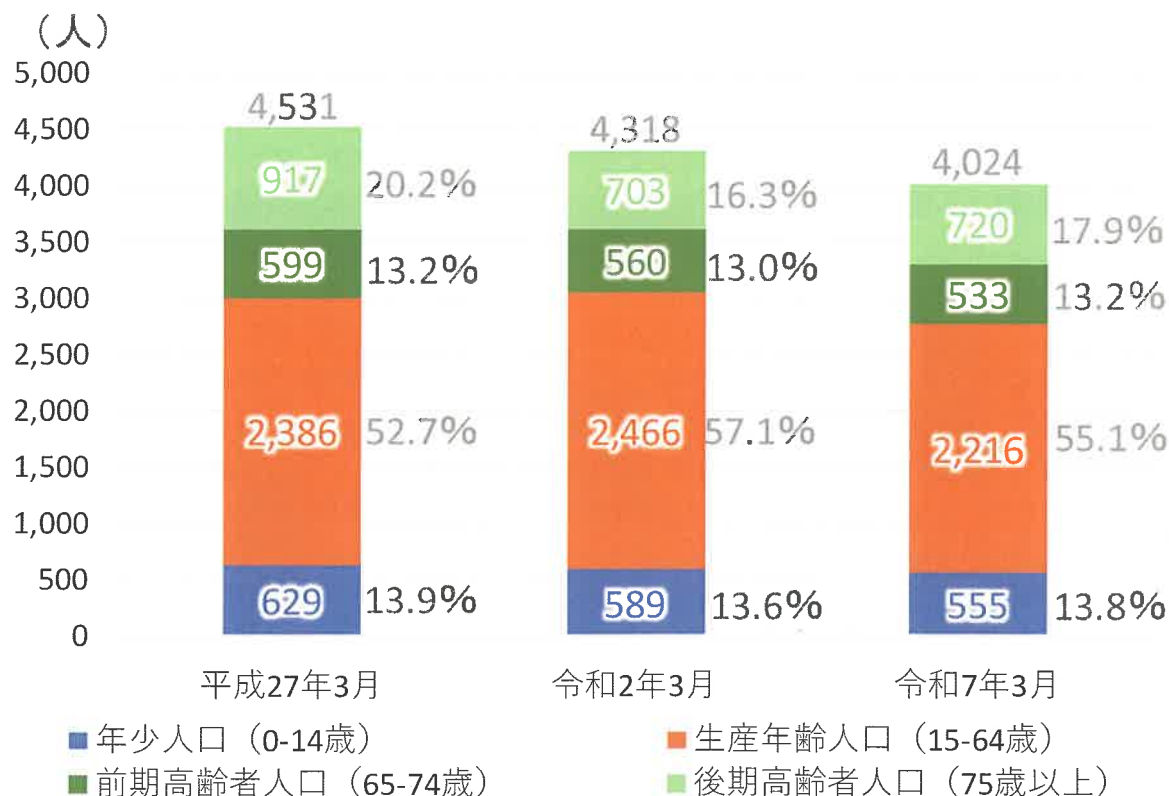
● 人口の推移・将来予測

10年前と比較し、現在の人口は、4,024人（11%減）となり、中央地区の高齢化率は31%（2%減）となりました。また、10年後の人口は3,548人（12%減）となることが推測されています。

全体的な傾向として、丹波市全体に比べて人口減少のスピードが緩やかな特徴があります。市全体で高齢化が進む中でも、現役世代の割合が極端に減らないため、地域コミュニティの維持力は比較的高いと推測できます。

これらの状況を踏まえると、今後の地域づくりでは、今いる人が無理なく関わり続けられる仕組みを整えることが重要となります。現役世代が一定数いるという強みを生かし、世代を越えて役割を分かち合いながら、将来にわたって持続可能な地域コミュニティを育てていくことが求められます。

【中央地区人口構成の変化】



出所：丹波市住民基本台帳

10年間で総人口は緩やかな減少傾向にあり、年少人口も微減が続いています。一方、生産年齢人口は令和2年に一時的な伸びを見せた後、現在は減少局面を迎えています。高齢者人口は令和2年以降、1,200人台で安定的に推移しており、今後は全人口の約3割を支える生産年齢人口世代とのバランスを考慮し事業を行っていく必要があります。

【中央地区の自治会別高齢者割合の状況】

地区名	総人口	年少人口 (0-14歳)	生産人口 (15-64歳)	高齢者人口 (65歳以上)	高齢化率
中央地区	4,024	555	2,216	1,253	31.1%
上成松	631	117	359	155	24.6%
黒田	103	12	53	38	36.9%
犬岡	153	16	73	64	41.8%
西中東	142	6	77	59	41.5%
西中西	170	33	89	48	28.2%
西中南	476	87	279	110	23.1%
西中北東	165	21	85	59	35.8%
西中北西	187	17	115	55	29.4%
常楽	971	147	581	243	25.0%

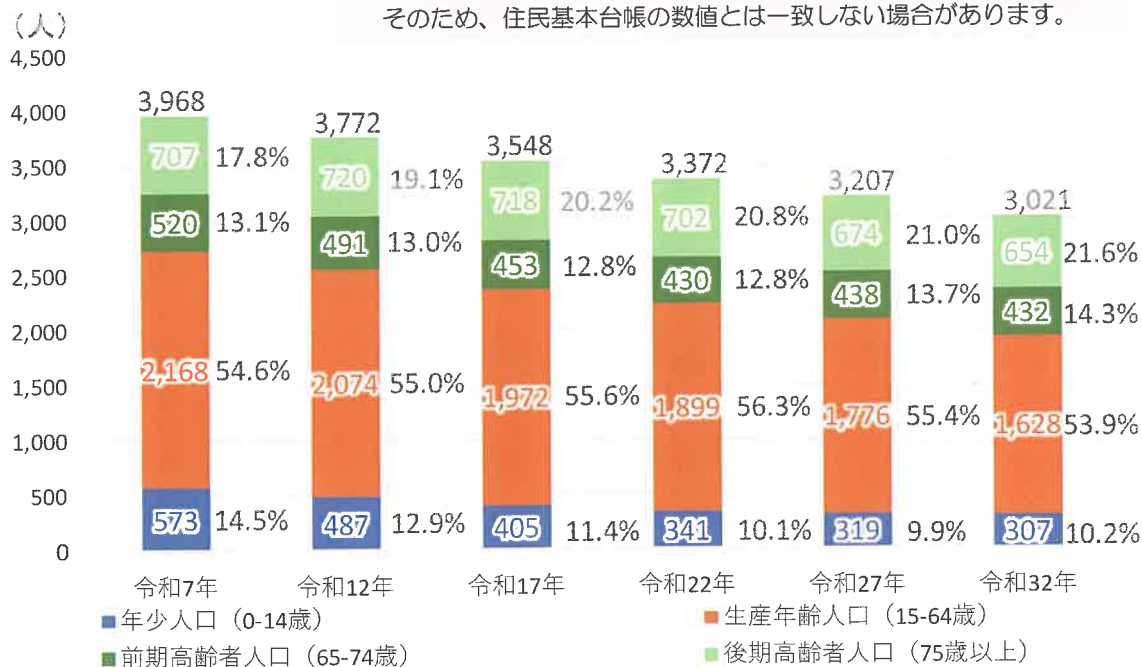
地区名	総人口	年少人口 (0-14歳)	生産人口 (15-64歳)	高齢者人口 (65歳以上)	高齢化率
新田	115	3	60	52	45.2%
中央通	38	3	19	16	42.1%
北町	193	16	97	80	41.5%
成松新町	46	5	21	20	43.5%
上町	54	9	22	23	42.6%
宮前	38	5	15	18	47.4%
西町	236	34	121	81	34.3%
中町	34	0	19	15	44.1%
下町	66	3	31	32	48.5%
東町	120	15	61	44	36.7%
泉住	86	6	39	41	47.7%

出所：丹波市住民基本台帳令和7年3月末時点

中央地区全体として高齢化が進む中、自治会ごとでは高齢者割合にばらつきがあることがわかります。いくつかの自治会では他よりも急速に高齢化が進行しており、地区内でも深刻さに格差が生じていることが危惧されます。

【中央地区人口推計】

※本人口推計は、令和2年の国勢調査の数値を基に作成しています。
そのため、住民基本台帳の数値とは一致しない場合があります。



出典：国土技術政策総合研究所「将来人口・世帯予測ツール V3 (R2 国調対応版)」による推計

将来に向けて総人口は減少の一途を辿り、特に現役世代の減少が加速する予測となっています。一方、高齢者数は高止まりもしくは微増が見込まれ、地域社会における高齢化率はさらに上昇し続ける見通しです。

3. 成果と課題

令和6年6月、中央地区まちづくり計画の具体的な検討と執筆をするため、計画策定委員会を設立しました。その後、委員会の名称を「こうが山ふるさと未来委員会」と定め、中央地区住民アンケートを実施しました。アンケート結果の分析や、住民・子どもたちから寄せられた意見を通じて、これまでの取組による成果と、今後に向けた課題が見えてきました。本章では、それらを整理し、共有します。

● 成果

住民アンケートおよび子どもアンケートを通じて、中央地区の魅力や大切にしてきた価値が改めて明らかになりました。多くの住民が「人とのつながり」や「地域の温かさ」を地域の強みとして挙げており、世代を超えた交流や支え合いがこれまで積み重ねられてきたことが、中央地区の大きな成果として確認されました。

また、子どもたちからは「地域の行事が好き」「地域の人ともっと関わりたい」といった前向きな声が多く寄せられ、中央地区の未来への期待が感じられました。さらに、日々の暮らしの中で感じている課題や改善に向けた意見が幅広く集まったことで、地域の現状を住民同士で共有する土台が整い、今後のまちづくりの方向性を住民と共に考えていくための意識が高まったことも重要な成果です。

● 課題

一方で、人口減少や高齢化の進行により、地域活動の担い手不足が深刻化しており、自治会や各団体における役員負担の偏りが大きな課題として明らかになりました。限られた人材で多くの役割を担う状況は、活動の継続性に影響を及ぼしており、将来を見据えた運営体制の見直しが求められています。

また、行事や地域活動が従来の方法に依存していることで、新たな参加者が関わりにくく、特に若い世代の関わりが十分に広がっていない点も課題として挙げられます。住民アンケートでは、「参加したいが負担が大きい」「もっと気軽に参加できる仕組みが必要」といった声が多く寄せられ、地域活動の形を見直す必要性が示されました。あわせて、世代間交流の機会が減少していることや、情報共有の方法が多様化に追いついていない点も、今後改善すべき重要な課題です。

これらの成果と課題を踏まえ、中央地区では、誰もが無理なく参加でき、持続可能な地域運営の実現に向けて、具体的な取り組みを進めていくことが求められています。

住民アンケートや小学生アンケート、各種団体へのヒアリング、中央まちびらき会議の記録はP16の二次元コードからご覧いただけます。

4. 基本方針

- 活動テーマとキャッチフレーズ

えん
「縁」

みんなが集い、心を紡ぎ、縁を育てるまち中央

- 基本方針

【誰でも気軽に参加できるまち】

- 自治会活動や伝統行事など、誰もが集える場を通じて紡ぎ合い、それぞれが楽しく活躍できるまち中央

【子どもや若い人がのびのび育つまち】

- 子どもが安心して外で元気に遊べる環境の中で、多様な体験を支えるまち中央
- 若い人が関わりやすく集まって交流できるまち中央

【歳を重ねても安心して暮らせるまち】

- 買い物、受診、散歩が安心して行けます。地域の安全安心と移動を支えるまち中央
- 集まり交流の場でつながる安心、話がはずみ相手の気持ちによりそうまち中央

【空き家や自然を楽しめるまち】

- 空き家を活かし、自然と共に暮らし、笑顔を紡ぐまち。みんなが集い未来をえがいていくまち中央

～ みんなでつくる 中央地区の10年間 ～

みんなが集い、心を紡ぎ、縁を育てるまち中央



誰でも気軽に
参加できるまち

自治会活動や伝統行事など
誰もが集える場を通じて紡ぎ合い、
それぞれが楽しく活躍できる
まち中央



歳を重ねても安心して
暮らせるまち

買い物、受診、散歩が安心して行けます。
地域の安全安心と移動を支える
まち中央



集まり交流の場でつながる安心、
話がはずみ相手の気持ちによりそう
まち中央



空き家や自然を
楽しめるまち

空き家を活かし、自然と共に暮らし、
笑顔を紡ぐまち



みんなが集い未来をえがいていく
まち中央



子どもや若い人が
のびのび育つまち

子どもが安心して外で元気に遊べる
環境の中で、多様な体験を支える
まち中央



若い人が関わりやすく
集まって交流できる
まち中央



5. 事業計画

事業計画は、中央地区自治振興会が次の内容をもとに、毎年見直しと立案を行います。

【誰でも気軽に参加できるまち】

生活スタイルや価値観の変化を踏まえ、自治会活動や地域行事への関わり方には、工夫や見直しが求められています。役割や行事のあり方を柔軟に捉え、負担の偏りを軽減しながら、誰でも無理なく関われる環境を整えることが重要です。

● 多様な関わり方ができる運営体制をつくる

- 20～40代が「無理なく」「ちょっとだけ」関われる、ゆるやかな参加の仕組みをつくる。
- のぼり立てなどの短時間・単発の手伝いから、将来的な関わりに繋がる幅を持たせる。
- 「ちょっとだけボランティア」を各事業で継続的に募集する。
- 自治会の役割をスリム化し、「誰でもできる」運営体制を検討する。
- 役員・行事の負担を小さくし、参加しやすい仕組みへ

● 世代を超えた交流ができ、参加したいと思える行事・イベントを検討する

- 中央地区の人が楽しめる伝統行事のあり方を検討する。
- 多世代が自然に混ざれる交流や、これまでにない、新しい形のイベントを企画する。
- 毎回テーマ（音楽、スポーツなど）を変え、関心に応じて参加できるボランティア事業をする。

● いろんな人に届くように情報発信を工夫する

- LINE や班回覧のデジタル化など、情報発信の一本化を進め、地域の動きが分かりやすく伝わる仕組みを整える。



【子どもや若い人がのびのび育つまち】

子どもが自然や地域と触れ合う機会が減り、若い世代が地域との接点を持ちにくくなっています。遊びや学び、体験を通じて、子どもが安心して挑戦でき、若い人が無理なく地域と関われる環境を整えるため、学びの機会や体験の場、必要な支援を地域全体で支えていくことが重要です。

● 子ども達や若い人が自然や地域と触れ合う体験をつくる

- 秋頃、甲賀山にいる生き物を親子で探すなど、自然を舞台に体験型イベントを行う。
- 甲賀山の清掃とあわせた焼き芋大会や、植え付けから収穫までを楽しむ活動を行い、調理の合間に昔遊びなども取り入れる。

● 子ども達や若い人の学びや居場所をつくる

- 空き家を整備し、飲食しながら勉強できる場（21:00 くらいまで）をつくるなど、放課後や夕方の居場所を検討する。

● 子ども達や若い人が挑戦や役割を持つ機会をつくる

- 子どもが店長となり、年に 2～3 回軽トラ市に出店する。
- 軽トラ市に出店無料のフリーマーケットを設け、気軽に参加できる機会をつくる。

● 世代を超えた交流ができる行事・イベントを継続的に行う

- 地域の人と子どもたちが継続的に交流できるイベントを行い、顔の見える関係を育てる。



【歳を重ねても安心して暮らせるまち】

高齢化が進む中、移動や買い物、外出のしやすさ、気軽に集える場が、安心して暮らすための重要な要素となっています。高齢者や要介護者を含め、誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、暮らしの基盤を支える視点に加え、防災や安全への配慮を進めていくことが重要です。

- **世代を超えた交流が生まれる機会や、特に高齢者が集える場所をつくる**
 - 高齢者が運営するカフェをつくる。
 - 曜日や目的に応じて使える集いの場を整備し、複数の拠点を検討する。
 - 高齢者と若者、子どもが交流できる機会をつくる。
- **高齢者の外出の機会づくりや、移動・買い物を支える仕組みを検討する**
 - 移動手段の整備や移動販売車の誘致等、買い物や外出を支える仕組みを検討する。
 - 外出や参加を後押しするポイント制度などの工夫を考える。
- **体を動かしてできる健康づくりや、多世代が参加できる防災・見守り活動を検討する**
 - 安全な散歩コースの企画や、運動できる場の整備を検討する。
 - 中央全体での防災訓練を行い、高齢者も参加し、食事をふるまう等の形を考える。
 - 下校時間に合わせた散歩など、子どもと高齢者双方の見守りにつながる取組を行う。



【空き家や自然を楽しめるまち】

空き家や自然環境は課題であると同時に、地域の暮らしや交流を支える大切な資源です。多様な使い方を考え、関わりながら活かすことで、交流や働く機会を生み出し、定住や移住につながる地域の魅力を育てていくことが重要です。

● 空き家を活用し、身近に集える場をつくることや、商業的利用を検討する

- 空き家を活かし、誰でも集える場をつくる（3自治会程で集える場）。
- 空き家を活かし、介護用品や駄菓子などを販売するなど、定期的な実施を検討する。
- 期間貸しによるお試しカフェなど、昼間の商業的利用を行う。
- 空き家を使った移住体験をつくる。

● 自然や公園を、楽しく身近に感じる機会・企画を検討する

- 自然をめぐるマップを作成し、小話もつけながら、楽しみを共有する。イベント時に公園を有効活用し、公園を身近に感じる機会を増やす。

● 公園を利用しやすい環境を整える

- 公園周辺などの駐車場を整備し、公園を利用しやすい環境を整える。



【計画の見直し】

本計画は、社会状況や地域の変化に応じて柔軟に見直しながら進めていくことを前提としています。半期ごとに中央地区自治振興会理事会で計画全体の見直し・修正を行い、その時々状況に応じて、財源確保に取り組めます。

【まちづくり拠点施設（ひかみ成松交流館）の整備】

別途委員会を設けて検討を進めます。

【地域学校協働活動】

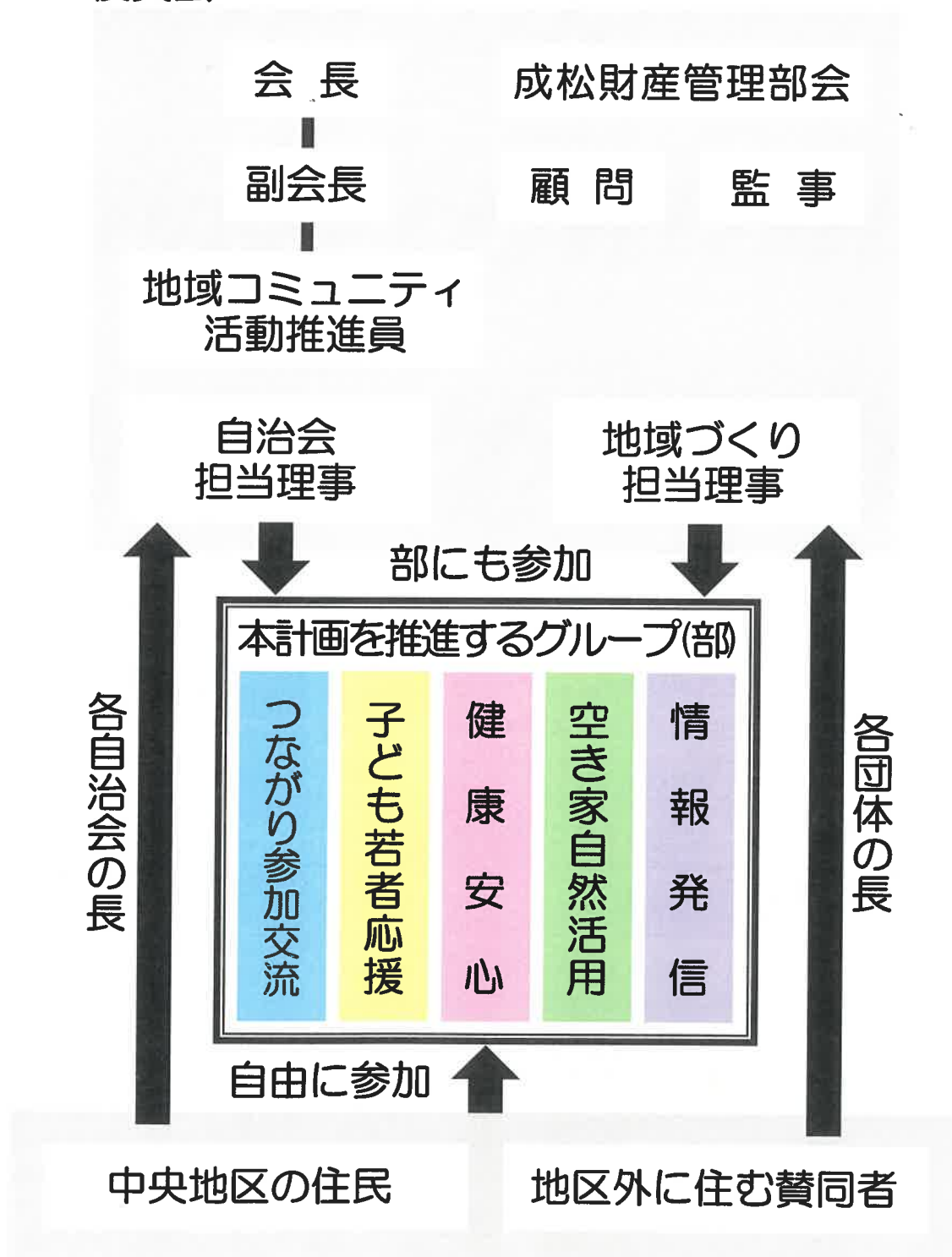
今後も学校と連携しながら取り組みを継続します。

6. 運営体制

- 計画を推進する運営体制

総 会

役員会



7. 計画策定の経過

本計画の策定にあたり、これまでに実施した委員会の開催記録と、議論を通じて進めてきた代表的な取り組み内容を記録としてまとめました。

● 委員会等の開催記録

開催月	会議・取り組み名称 / 出席者数	出席者数	内容
R6 6月	中央地区自治振興会 理事会	11人	計画策定委員候補者協議
10月	第1回こうが山ふるさと未来委員会	11人	アンケートについて学習
11月	第2回こうが山ふるさと未来委員会	14人	質問内容を協議
12月	第3回こうが山ふるさと未来委員会	13人	アンケート修正
R7 1月	第4回こうが山ふるさと未来委員会	11人	個別ヒアリングを計画
2月	第5回こうが山ふるさと未来委員会	13人	個別ヒアリングを計画
	小学生アンケート（回答数 105 件）		小学生へアンケート実施
2～3月	住民アンケート（回答数 1,968 件）		住民へアンケート実施
3月	第6回こうが山ふるさと未来委員会	11人	小学生アンケート集計
3～5月	アンケート集計作業（計7回実施）	87人	住民アンケート集計
6月	中央地区自治振興会 理事会	12人	アンケート集計結果報告
	第7回こうが山ふるさと未来委員会	12人	概要版作成
6～7月	大学生へのアンケート（回答数 8 件）		大学生アンケート実施
	学校の先生へのヒアリング		学校教員ヒアリング実施
7月	第8回こうが山ふるさと未来委員会	13人	中央まちびらき会議の企画検討
	事業者へのアンケート（回答数 13 件）		事業所を訪問しアンケートを実施
	中央地区自治振興会 理事会	12人	アンケート分析結果共有
	各自治会での意見交換		各自治会で意見交換
8月	第9回こうが山ふるさと未来委員会	12人	中央まちびらき会議の企画検討
	アンケート概要版配布		全戸配布
10月	第10回こうが山ふるさと未来委員会	13人	中央まちびらき会議のリハーサル
	中央まちびらき会議	77人	住民と事業のアイデアを意見交換
11月	第11回こうが山ふるさと未来委員会	10人	活動テーマ・キャッチフレーズ・基本方針を整理
	チーム代表＋事務局会議	9人	活動テーマ・キャッチフレーズ・基本方針を執筆
12月	第12回こうが山ふるさと未来委員会	9人	事業アイデアを整理
	中央地区自治振興会 理事会	12人	経過報告
R8 1月	第13回こうが山ふるさと未来委員会	13人	計画確認
2月	中央地区自治振興会 理事会	13人	計画確認

事前打ち合わせ回数：計 17 回

● 代表的な取り組み

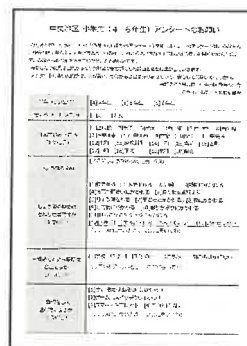
地域づくり計画書の策定にあたり、こうが山ふるさと未来委員会では、住民一人ひとりの意見を丁寧に聞き取り、整理したうえで計画書へ反映しました。

【住民・小学生アンケート】

中央地区に住む中学生以上の全住民を対象としたアンケートと、中央小学校に在学する小学4～6年生を対象としたアンケートを実施しました。設問内容は委員会で検討を重ねて作成し、完成したアンケートは自治会や学校と連携して配布・回収を行いました。（回答数：住民用1,968件、小学生用105件）。

集計作業には、延べ87名の有志住民や地域事業者など多様な協力者が参加しました。本取り組みは、結果だけでなく、実施から集計に至る過程そのものが、計画書をきっかけとした住民参加のまちづくりにつながった点に大きな意義があったと言えます。

また、アンケート結果概要版を作成し、全戸配布しました。



【個別対象へのヒアリング】

住民アンケートとは別に、個別の意見把握を目的として、地域内の事業者、学校の教員、大学生を対象とした聞き取りを実施しました。委員会内でチームを編成し、質問内容の検討から聞き取りの実施までを行いました。



【中央まちびらき会議】

中央地区の住民を対象に住民意見交換会を実施しました。（参加者77名）。本計画の4つの基本方針から関心のあるテーマを選び、グループに分かれて事業のアイデアを検討しました。各グループには委員が入り、議論の整理と記録を行いました。

当日は、飲み物の用意に加え、地域事業者の協力によるお菓子の提供もあり、活発で和やかな意見交換の場となりました。



中央地区まちづくり計画書

えん 「 縁 」

発行：中央地区自治振興会

〒669-3601

兵庫県丹波市氷上町成松347番地

ひかみ成松交流館内

電話 / FAX : 0795-82-9800

E-mail : narimatsu@hikami.net

こうが山ふるさと未来委員会

◎：会長 ○：副会長 (敬称略)

	氏名	所属・役職
	村 上 豊	中央地区自治振興会 会長
	後 藤 正 義	中央地区自治振興会 副会長
	吉 田 克 則	中央地区自治振興会 副会長
	田 中 優 子	地域コミュニティ活動推進員
	戸 田 晶 子	地域コミュニティ活動推進員
	荻 野 隆 司	自治会長会 会長
	拝 野 茂	前自治会長会 会長
◎	八 尾 公 輔	地域づくり担当理事
○	松 野 智 志	地域づくり担当理事
	谷 和 義	丹波市身体障がい者福祉協議会 会長
	三 方 鎮 男	グラウンドゴルフ同好会 会長
	清 水 真 弓	前丹波市氷上民生委員・児童委員 中央地区部会長
	岸 田 好 史	令和6年度 中央小学校 PTA 会長
	十 倉 さ お り	令和6年度 中央小学校 PTA
	増 田 智 恵 美	令和6年度 中央小学校 PTA
	谷 垣 忠 司	CAC (中央アクティブサークル) 代表
	植 地 惇	CHATTA (空き家対策委員会)
	田 中 凌 平	CHATTA (空き家対策委員会)
	植 野 誠 浩	令和7年度 中央小学校 PTA 会長
	久 野 綾 香	令和7年度 中央小学校 PTA
	松 浪 め ぐ み	令和7年度 中央小学校 PTA

表紙絵協力 氷上中学校 3年生 東野珠々

写真協力 松本義明

アンケート入力ボランティア

平岡 治 蘆田徳行 古田理絵 古田匠汰
 八尾由江 左神ひかり 芦田知大 安田凪那
 迎山哲也 土田 悠 松本風香 村上斗佑真
 足立宏規 上野克幸

発行日 令和8年3月31日

印 刷 きくもとグラフィックス株式会社

